

## 秋田県と他地域の観光地の類型化

岩手大学 学生会員 ○田村駿太  
岩手大学 正会員 平井寛  
岩手大学 正会員 南正昭

### 1. はじめに

日本の観光業は観光客のニーズの変化などにより停滞している。秋田県の観光業も宿泊人口の減少による停滞が深刻化しており、このまま停滞し続ける可能性がある。

本研究の目的は、入込観光客数・入込観光客の出身地方数などを用い、秋田県と他地域の観光地の類型化を行うことである。そして、秋田県と他の地方を比較し、秋田県と日本の観光業の将来を予測する。

### 2. 研究方法

本研究では野本(1962)が定義した観光地を日帰りの観光地、週末的観光地、連休的観光地、長期休日の観光地の4種類に類型化する。

日帰りの観光地は地方数が1箇所、週末的観光地は地方数が2~3箇所、連休的観光地は地方数が4~5箇所、長期休日の観光地は地方数が6箇所以上とする。これらの観光形態は観光地の規模を表し、日帰りの観光地は宿泊施設がないくらい規模が小さく、週末的観光地は近隣の地方から観光客が訪れる程度の規模である。連休的観光地は周遊できるほどの規模であり、長期休日の観光地は様々な国々の観光客が訪れるくらい大きな規模の観光地である。

秋田県に11箇所あるおもな観光地を対象地域、調査に必要なデータが得られた大分県の18箇所、和歌山県の17箇所、島根県の3箇所、高知県の15箇所、徳島県の10箇所の観光地を比較対象地域とした。そこに訪れた観光客の出身地の地方数を用いて観光地の類型化を行う。秋田県の主な観光地と比較対象地域の調査のサンプル数が違うので、各地方から訪れた入込観光客を割合で表し比較する。

### 3. 研究結果・考察

秋田県のおもな観光地と比較対象地域を類型化した

結

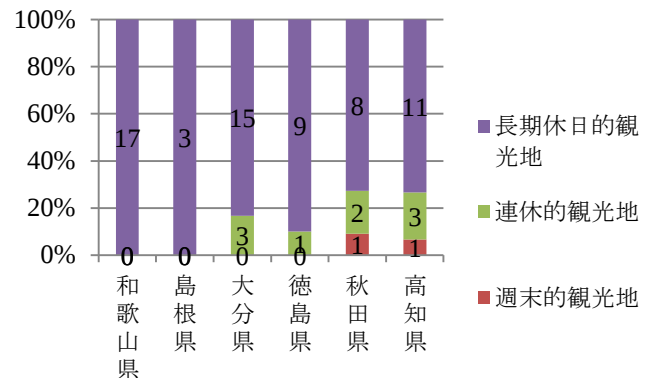


図1：観光地を類型化した図

果を図1に示す。

どの地域も長期休日の観光地の割合が大きいことが分かる。秋田県の観光形態は長期休日の観光地・連休的観光地・週末的観光地の3種類であり、高知県と同じ観光形態である。長期休日の観光地・連休的観光地の2種類の観光形態だったのは大分県・徳島県の2県、長期休日の観光地のみだったのは和歌山県と島根県の2県だった。

秋田県と高知県の観光地の入込観光客を合計し、類型化した結果を図2に示す。

秋田県は秋田県を含む北海道・東北地方から訪れる入込観光客が7割以上の割合を占めており、関東地方から訪れる入込観光客は1割以上を占める。また、高知県は高知県を含む中国・四国地方から訪れる入込観光客は5割以上を占めており、近隣の地方である近畿地方と関東地方から訪れる入込観光客は1割以上を占める。比較的各地方から入込観光客を集客している。

秋田県と大分県・徳島県の観光地の入込観光客を合計し、類型化した結果を図3に示す。

大分県は大分県を含む九州・沖縄地方から訪れる入込観光客が4割以上の割合を占めており、近隣の地方

キーワード：観光

連絡先:岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 電話:019-621-6453 FAX:019-621-6460

である近畿地方、中国・四国地方と関東地方から訪れ

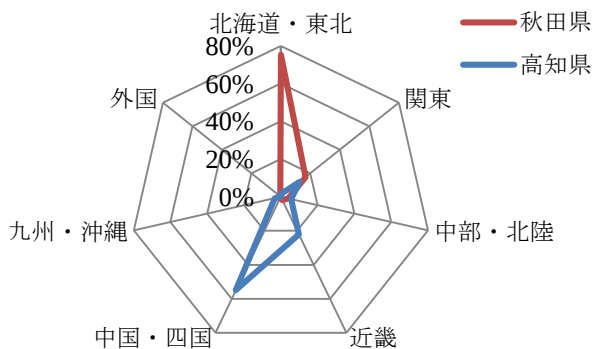


図2：秋田県と高知県の類型化

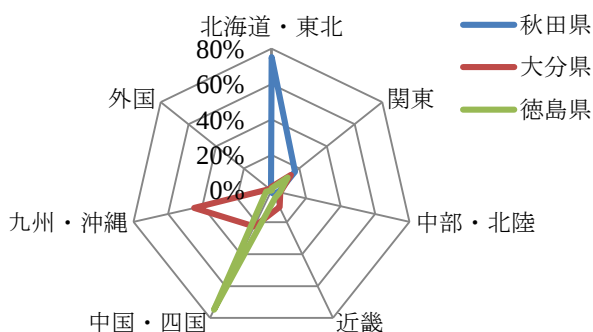


図3：秋田県と大分県・徳島県の類型化

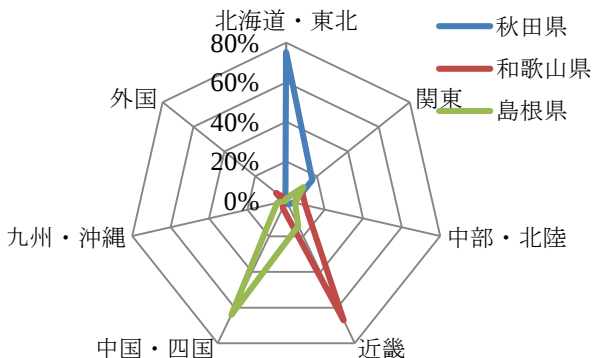


図4：秋田県と和歌山県・島根県の類型化

る入込観光客が1割以上を占める。また、徳島県を含む中国・四国地方から訪れる入込観光客が7割以上を占めており、関東地方から訪れる入込観光客のみ1割以上を占める。

秋田県と和歌山県・島根県の観光地の入込観光客を合計し、類型化した結果を図4に示す。

和歌山県は和歌山県を含む近畿地方から訪れる入込

観光客は6割以上の割合を占めており、近隣の地方である中部・北陸地方と関東地方から訪れる入込観光客は1割以上を占める。また、島根県は島根県を含む中国・四国地方から訪れる入込観光客は6割以上を占めており、近隣の地方である近畿地方と関東地方に訪れる入込観光客は1割以上を占める。

秋田県は比較対象地域に比べ、北海道・東北と関東からの入込観光客の割合が最も大きいことがわかった。しかし、それ以外の地域からの入込観光客は0~4%と最も小さく西日本からの観光客が極端に少ないことがわかった。また、対象地域のすべてが近隣の地方からの観光客が多いことがわかった。

#### 4. おわりに

本研究は、観光地を観光地の規模ごとに分類することができた。日本の観光地には近隣地方から訪れる入込観光客数の割合が大きいことがわかった。過疎地域では観光地に訪れる入込観光客数が少ないことから過疎地域の観光業は衰退し、過密地域の観光業は発展すると予想できる。これにより日本の観光業の格差が示唆され、人口の少ない秋田県の観光業は衰退すると予想される。観光地の地理・歴史などの要因を加味し、調査範囲を全国に広げることで観光業の将来を予測するための要因をさらに明確にできる可能性がある。

#### 参考文献

1. 平成25年度大分県観光実態調査報告書
2. 平成26年新潟県観光入込客統計
3. 平成26年度本県外国人宿泊数調査結果
4. 平成26年島根県観光動態調査結果
5. 平成25年県外観光客入込・動態調査報告書
6. 平成25年県外観光客入込・動態調査報告書
7. 観光客動態調査報告書H26年和歌山県商工観光労働部観光局
8. 平成24年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査報告書
9. 秋田県人口の現状と将来
10. 平成25年秋田県観光統計
11. 野本晃史(1962):「観光客流動圏の形態からみた観光地類型とその分布」